2024年 1月27日付「茨城新聞」掲載②

センバツ出場32校決定

常総、頂点目指す

第96回選抜高校野球大会（3月18日開幕・甲子園）の出場32校を決める選考委員会が26日、大阪市内で開かれ、本県から関東大会4強の常総学院が選出された。同校の出場は2021年の93回大会以来3年ぶり11度目。21世紀枠の候補校となっていた水戸一の選出はならなかった。

能登半島地震で大きな被害を受けた石川県輪島市にある日本航空石川も選出された。日本航空石川は新型コロナウイルスで中止となった2020年大会以来4年ぶり3度目の出場。

前回大会覇者の山梨学院や、同準優勝の報徳学園（兵庫）、昨秋の明治神宮大会を制した星稜（石川）も選ばれた。5年連続出場の大阪桐蔭は春夏合わせて10度目の甲子園制覇が懸かる。広陵（広島）は27度目、高知は21度目、学法石川（福島）は33年ぶりの出場。耐久（和歌山）と熊本国府は春夏通じて初出場。

練習環境などのハンディ克服や、地域貢献といった戦力以外の要素を加味する21世紀枠は、昨年より1校少ない2校を選出。春夏通じて初の別海（北海道）と、76年ぶり3度目の田辺（和歌山）が名を連ねた。

組み合わせ抽選会は3月8日に出場校の主将が参加して対面で行われる。選抜大会は1924年の第1回大会から100年を迎える。

常総学院・丸山隼人二塁手（2年） 実感が湧いてきた。甲子園でもチームに勢いを与えられる打撃と、ミスのない守備ができるようにしっかり準備をしていきたい。

常総学院・鈴木駿希右翼手（2年） 学校名が呼ばれるまではドキドキした。出場が決まり、気持ちも切り替わった。目標は日本一。レベルアップして甲子園に臨みたい。

常総学院・近藤和真左翼手（2年） 幼い頃から夢だった甲子園に行くことができ、うれしい気持ちでいっぱい。これまでチャンスで打てなかったので、ここ一番という場面で活躍したい。

3年ぶり11度目のセンバツ高校野球大会出場が決定し、喜ぶ常総学院の選手たち＝土浦市中村西根、鈴木葵撮影

「茨城の強さ示したい」

常総学院は選手や保護者ら約150人が学校A棟ホールに集まり、選出校を告げる中継画面を見つめた。関東地区4番目に学校名が読み上げられると、歓声に沸いた。校内放送も流れ、一般生徒たちも拍手を送った。

その後、同会場で行われた報告会で壁谷恵校長は「全員で勝ち取ったもの。頂点を目指して思い切りプレーし、甲子園を楽しんでほしい」と選手たちを激励した。

前回出場時は2回戦敗退。島田直也監督(53)は指揮官として3年ぶり2度目の甲子園に向け、「選手たちと一緒に成長してきた。大会までに準備を重ね、全国で茨城の野球の強さを示したい」と意気込んだ。

攻守でチームをけん引してきた若林佑真主将（2年）は「甲子園でプレーすることはずっと夢だった」と安堵（あんど）の笑顔を見せ、「優勝を目指し、残りの期間で技術と自信を高めていきたい」と抱負を語った。

県大会、関東大会の計8試合で2本塁打を放ち、13打点を挙げた主砲・武田勇哉（同）は「やっとスタートラインに立った。打点を稼いでチームに貢献したい」と気合十分に話した。

目標に掲げる全国制覇への鍵は投手陣の成長。エース右腕の小林芯汰(同)は「これからが本当の勝負。絶対に負けないピッチャーになる」と力を込めた。

（関口沙弥加）

学校紹介

常総学院 1905年に創設された常総学院中学を前身とし、83年に男女共学の私学として創立。全日制普通科、生徒数1629人（昨年4月1日現在）。甲子園には過去に春10回、夏16回出場。春は2001年に全国優勝、夏は1987年に初出場して準優勝を果たし、2003年に全国制覇した。現在の部員は69人。主な野球部OBは仁志敏久（元横浜）金子誠（元日本ハム）内田靖人（元楽天）宇草孔基（広島）鈴木昭汰（ロッテ）ら。吹奏楽部やバドミントン部なども全国大会の常連。所在地は土浦市中村西根1010。壁谷恵校長。

戦力分析

切れ目のない打線

秋季大会は県大会を準決勝までコールドで勝ち上がり、決勝も8－0と投打で圧倒。県大会5試合のチーム打率は3割6分9厘、防御率は0・73と、持ち前の堅守とともに打力が光った。関東大会は3試合でチーム打率が3割8分7厘。県大会から準々決勝までの6試合連続2桁安打を放つなど好調打線を維持し、関東4強入りを果たした。

打線は上位から下位まで切れ目がなく、下位からでも好機を生み出す。1番の丸山隼人（2年）は関東大会で4割超の打率をマークしリードオフマンとして機能。県大会で打率5割7分1厘のチームトップを記録した若林佑真主将（同）や県、関東通じて本塁打2本を含む13安打、13打点を挙げた主砲の武田勇哉(同)が存在感を示した。

投手陣の柱を担うエース小林芯汰（同）は140キロ台後半の直球が武器。県大会は4試合23回を投げ1失点で防御率0・39を誇った。関東大会初戦のマウンドも7回1失点と試合をつくった。2番手以降の成長が課題だが、斎藤一磨（同）や平隼磨（同）の好救援もあり、今後の好材料だ。

野手陣は8試合で5失策。遊撃手の若林主将を中心に、甲子園に向けてさらに磨いていきたい。

【常総学院秋季大会成績】

◇県南地区1次予選		
▽2回戦	○3―2	江戸川学園
▽代表決定戦	○2―1	つくば国際
◇県南地区シード決定戦		
▽準決勝	○4―3 （延長10回、10回からタイブレーク）	霞ケ浦
▽決勝	○5―3	藤代
◇県大会		
▽2回戦	○14―0 （5回コールド）	日立商
▽3回戦	○10―2 （8回コールド）	日本ウェルネス
▽準々決勝	○7―0 （8回コールド）	水城
▽準決勝	○8―1 （7回コールド）	水戸一
▽決勝	○8―0	鹿島学園
◇関東大会		
▽1回戦	○9―2 （8回コールド）	専大松戸(千葉)
▽準々決勝	○10―5	花咲徳栄(埼玉)
▽準決勝	●2―7	作新学院(栃木)

【常総学院のセンバツ大会成績】

＝14勝9敗

回	年	回戦	結果	対戦校
59回	1987年	1回戦	●0―4	明石(兵庫)
65回	93年	2回戦	○9―3	宇和島東(愛媛)
		3回戦	●4―6	東筑紫学園(福岡)
66回	94年	1回戦	○3―0	岡山理大付
		2回戦	○2―0	高知商
		準々決勝	○6―2	姫路工(兵庫)
		準決勝	○13―3	桑名西(三重)
		決勝	●5―7	智弁和歌山
70回	98年	2回戦	○9―2	岩国(山口)
		3回戦	●4―5	明徳義塾(高知)
73回	2001年	2回戦	○8―7	南部(和歌山)
		3回戦	○4―1	金沢(石川)
		準々決勝	○4―2	東福岡
		準決勝	○2―1	関西創価(大阪)
		決勝	○7―6	仙台育英(宮城)
77回	05年	1回戦	●5―6	市和歌山商
85回	13年	2回戦	●0―2	済々黌(熊本)
87回	15年	1回戦	○14―1	米子北(鳥取)
		2回戦	○8―1	今治西(愛媛)
		準々決勝	●3―5	大阪桐蔭
88回	16年	1回戦	●2―6	鹿児島実
93回	21年	1回戦	○9―5	敦賀気比(福井)
		2回戦	●5―15	中京大中京(愛知)

※市和歌山商は現市和歌山

選抜高校野球補欠校

【北海道】
東海大札幌
【東　北】
一関学院（岩手）
鶴岡東（山形）
【関　東】
桐光学園（神奈川）
花咲徳栄（埼玉）
【東　京】
創価
【北信越】
北陸（福井）
帝京長岡（新潟）
【東　海】
藤枝明誠（静岡）
県岐阜商（岐阜）
【近　畿】
履正社（大阪）
須磨翔風（兵庫）
【中　国】
宇部鴻城（山口）
高川学園（山口）
【四　国】
鳴門（徳島）
明徳義塾（高知）
【九　州】
大分舞鶴（大分）
延岡学園（宮崎）
【21世紀枠】
鶴丸（鹿児島）
仙台一（宮城）

第96回 選抜高校野球大会 出場校一覧

地区	校名	都道府県	出場
北海道	北海		3年ぶり⑭
東北	青森山田	青森	8年ぶり③
	八戸学院光星	青森	5年ぶり⑪
	学法石川	福島	33年ぶり④
関東	常総学院	茨城	3年ぶり⑪
	作新学院	栃木	2年連続⑫
	高崎健康福祉大高崎	群馬	2年連続⑦
	中央学院	千葉	6年ぶり②
	山梨学院	山梨	3年連続⑦
東京	関東第一		8年ぶり⑦
北信越 ※神宮大会枠1校を含む	星稜	石川	2年ぶり⑯
	日本航空石川	石川	4年ぶり③
	敦賀気比	福井	4年連続⑪
東海	豊川	愛知	10年ぶり②
	愛工大名電	愛知	12年ぶり⑩
	宇治山田商	三重	16年ぶり②
近畿	近江	滋賀	2年ぶり⑦
	京都外大西	京都	18年ぶり⑦
	京都国際	京都	3年ぶり②
	大阪桐蔭	大阪	5年連続⑮
	報徳学園	兵庫	2年連続㉓
	耐久	和歌山	初出場
中国	創志学園	岡山	7年ぶり④
	広陵	広島	3年連続㉗
四国	阿南光	徳島	32年ぶり②
	高知	高知	3年連続㉑
九州	東海大福岡	福岡	7年ぶり③
	熊本国府	熊本	初出場
	明豊	大分	3年ぶり⑥
	神村学園	鹿児島	9年ぶり⑥
21世紀枠	別海	北海道	初出場
	田辺	和歌山	76年ぶり③

○数字は出場回数